

久しぶりの母校訪問

成澤文和（4組）

8月8日から9日にかけて上田に墓参りを兼ねて帰省してきた。

9日は母校を久しぶりに訪れたが、夏休みのためか閑散としており静かな雰囲気漂っていた。

正門は周知のとおり上田藩主居館の薬医門で、1789年焼失後翌年再建されたものである。

江戸時代に建てられた武家又は城の門を現有している高校は上田高校を含めて7校あるが、母校の門は代表的なものでありまさに「古城の門」である。

周囲の堀は特に南側の水位がかなり下がり、また緑の藻が大分増えていた。

今まで改修工事も何度かあったと思うが、来年迎える母校創立120周年の記念事業で堀の改修・浚渫工事実施の為に同窓会の募金活動が始まっている。私も出来る範囲で協力するつもりだ。

いつの時代か分からないが、昔は堀に白鳥が飛来したとのことだが、以前のように透き通った水を湛えた堀が見られるのが楽しみである。

帰り際、東京から上田に観光で訪れた二人の若い女性の記念写真を頼まれ、校門を背景にして撮ってあげたら良く撮れていたそうで大変喜んでいた。

二人はこれからお城へ行くので、上田城の歴史（私の得意分野）について少し説明し、私も満足して母校を後にした。

（2019年9月3日記）

次ページに筆者撮影（2019年8月9日）の写真2葉

写真1：古城の門



写真2：水位が下がり藻が繁殖しているお堀

